

令和4年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和5年2月16日
江別市立豊幌小学校

- 本年度の重点目標
3つの「つながり」を意識し、表現力に磨きをかける
つながり ①授業でのつながり ②異学年とのつながり ③社会、地域とのつながり
- 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	達成状況の適切さ	改善方策の適切さ
経営方針の重点	主体的・対話的で深い学びの実現と体力の向上を図ることができたか	B	<p>○学校は、校内研修等を計画的に行い、教職員の資質向上を図るとともに、個に応じた学習指導法の工夫・改善に努めてきました。</p> <p>《教科指導について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度もコロナウイルス感染症の影響を受ける一方で、学習内容を工夫し、感染症対策を講じることで教育活動を概ね予定通りに推進してきました。感染症への不安により休んだ児童や学習の遅れやつまずきが見られた児童に対しては、個別指導を実施し、理解の支援に努めました。 ・国語を全校共通の取り組みとして研修を深めました。「言葉を通じて自らと向き合い、共に高め合う子どもの育成」を研究主題に掲げ「書くこと」「読むこと」を中心に授業作りに取り組みしました。研究授業の実践を通して検証、授業力の向上につなげました。 <p>①指導課程の工夫・改善 (主体的・対話的で深い学びのための授業づくり 教師のICT機器の活用や工夫)</p> <p>②表現できる児童の育成を目指した言語活動の充実の取組 (語彙力の充実・聞き方の指導・書くことの指導の工夫)</p> <p>③学習規律や学習習慣の定着 (学習時間の机上に置いておくもの、姿勢等)</p> <p>④基礎学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の取組強化:かがやきタイムの活用(自主的な家庭学習の計画) ・自主的な復習の場の設定 (類似問題、復習プリント、算数に親しむプリント) ・くり返し学習することによる基礎学力の定着(「理解」から「習得」へ) <p>・今年度低学年にタブレットが配置され、全児童への配置が完了しました。デジタル教科書、デジタルドリル、Googleアプリなどがすっかり学習に浸透してきています。デジタルドリルの活用は個別最適な学びの充実につながります。Googleアプリ(スライド、スプレッドシートなど)は、主体的・対話的な学びの充実に大いに役立っています。今後も新しい活用方法に関わる研修を深め、さらなる活用・学習活動の充実に努めます。</p> <p>・今年度の全国学力・学習状況調査の結果を10月末にお知らせしました。結果は、「国語一回回っている」「算数一回回っている」「理科一回回っている」となりました。国語については、「書くこと」に改善が見られましたが、下回る領域もありました。算数については、「記述式の問題について正答率が高い」傾向が見られました。理科については、算数と同様、「記述式の問題について正答率が高い」傾向が見られました。</p> <p>本校の研究で取り組んできた主体的な学びを充実させるための「書く」活動の積み重ねの成果が出ました。今後は、「読む」力を伸ばす授業作りを進めていきます。</p> <p>《体力の向上について》</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 密にならない対策をとりながらの体育の授業の工夫 ② 日常的に取り組める環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・体育委員会企画の「走れ！豊幌！」、日常的に取り組める体力づくり(垂直跳び・幅跳びコーナーを玄関ホールに設置) ③ 縄跳び月間の取り組み(2月の参観日公開予定) ④ 外遊びの奨励・推進など ⑤ 新体力テストの実施(全学年)小中一貫教育として江陽中と連携 <p>上のような体力向上の取り組みを継続するとともに、スポーツ庁からの結果を受けてさらなる改善策を模索します。</p>	A	A
	道徳授業及び縦割り班活動・児童会活動等の取組を通し、児童に思いやりや自尊感情を育むことができたか	A	<p>○具体目標の一つ「たすけあう子～(礼儀、協力、奉仕、寛容などの情緒の面での力を要素として、人とかかわりを大切にして助け合うことの出来る子(共生))」のために、学校は下記の取組を進めてきました。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 感染状況を見ながら、縦割り活動(清掃等)の再開と充実 ② 道徳授業の充実(距離を取り、感染防止対策を取りながら思考交流や対話的な活動の工夫) ③ 学級での日常の声かけ <p>「全国学力学習状況調査児童質問用紙」から昨年度と比較して「自己肯定感」の向上が見られました。本校の重点教育目標「3つの『つながり』を意識し、表現力に磨きをかける」です。今後も少人数の特性を活かして全職員で子どもたちに関わり豊幌ならではの教育活動を推進していきます。</p>	A	A

教育課程・学習指導	指導方法の工夫改善に取り組み、確かな学力が身につくような『わかる授業』を行うことができたか	A	<p>○本校では、「一人一人がわかる授業」を目指し、指導体制や指導内容・方法を工夫しながら、職員全員で指導を行ってきました。</p> <p>①「一斉指導」：一人の教師がクラス全員を対象に指導</p> <p>②「複数教員指導(チームティーチング=T・T)」：複数の教師でクラスを指導</p> <p>③「少人数指導」：クラスをいくつかのグループに分けて人数を少なくして指導</p> <p>④「習熟度別少人数指導」：習熟度別に少人数でグループを編成して指導</p> <p>⑤「個別指導」：個の実態に合わせて、別室で個別に指導</p> <p>それぞれの取組については、保護者アンケート等でも、よい評価をいただきました。</p> <p>次年度も「わかる・できる・楽しい授業」をめざして、算数において、複数教員指導(チームティーチング=T・T)を中心に、一人一人の能力を最大限伸ばす取組を進めていきます。また、北海道教育委員会や江別市教育委員会の事業(学習サポート教員配置、出前授業等)も積極的に活用していきます。</p>	A	A
特別支援教育	地域の特色を生かした教育活動は豊かな心を育むのに有効であったか	B	<p>○学校は、地域と連携し、本校の特色である農業・食育体験や福祉体験等の「体験活動を重視した教育」、専門的な知識や技能をもった地域や外部の方を講師に招いて「出前授業」を進めました。総合的な学習の時間では、地域の方のご協力を得て、3年生：小麦、4年生：大豆、5年生：米、6年生：じゃがいもの栽培学習を実施させていただきました。</p> <p>また、育成会と連携し「もちつき」を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症により今回は見送り、その代わりに「日本の伝統文化体験」に取り組みました。</p> <p>さらに「情報モラル教室」「食の指導」などの出前授業も順調に進めて参りました。</p> <p>地域への感謝の気持ちを忘れず、自然豊かな豊幌地区の特色を生かした教育活動を充実させていきます。</p>	A	A
特別支援教育	関係機関と連携を図りながら、全職員で子どもたちを育てる校内体制づくりを進めることで、子どもたちは喜んで登校することができたか	B	<p>○学校は、個に応じた指導や支援の充実を図るために、職員全体で一人一人の児童について共通理解を図りながら、組織的に対応できる校内体制づくりに努めています。</p> <p>①心の教室相談員：児童の悩み相談、教師へのアドバイス</p> <p>②英語のALT(アシスタント・ランゲージ・ティーチャー)</p> <p>③学習サポート講師(教員免許所有者)</p> <p>④学習指導員</p> <p>⑤特別支援教育支援員</p> <p>1年生と特別支援学級の支援に入っています。</p> <p>⑥特別支援教育コーディネーター</p> <p>専門的知識を有した教員が特別支援教育コーディネーターをしています。担任の相談にのったり、SSW(スクール・ソーシャル・ワーカー)など関係機関との連携もスムーズに進めております。</p>	A	A
いじめ対応	学校は、子どもの悩みや問題に寄りそい、家庭と連携しながらいじめのない学校づくりに取り組んでいるか	A	<p>○学校は、いじめ調査を含め、日常観察をしっかりと行い、児童生徒の悩みや問題に対し、全職員で児童の状況を共有し、また家庭と連絡を密にしながら、問題の解決に向けて取組を進めています。</p> <p>①いじめ調査の確実な実施を行い、全職員で状況を共有、組織的な対応を行う。</p> <p>②いじめ防止対策委員会で児童の状況や対応について客観的に分析、その後の組織的な指導や支援に繋げる取組を進めています。</p> <p>③保護者と緊密に連携し、学校の気づきや把握した状況について早期に共有を図り、連携して問題の解決に当たっています。</p>	A	A
学校と保護者の連携	家庭や地域との連携(情報発信・交流)に努め、基本的な学習・生活習慣(家庭学習の習慣化や早寝、早起き、朝ごはん)の確立や安全・安心のための取組は進められているか	A	<p>○保護者や地域から信頼される学校を目指し、学校便り・学年便りの発行、HPの定期的な更新を行い、情報発信・相互交流に努めています。今年度も、出来るだけ丁寧な説明と情報発信につとめてきました。今後も家庭と連携を図りながら、家庭学習の習慣化、スマートフォン、タブレットの使い方などといった生活習慣の確立を目指した取組を進めて参ります。</p>	A	A

< 評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見 >

- 全体的にコロナの中、よく努力されていると思います。
- 先生方の日々のご尽力に感謝しております。以前に比べて児童の自己肯定感が向上しているとのことで大変嬉しく思います。これから先、自分の考えや意見をきちんと人に伝えることができるようになるためにも「書くこと」「読むこと」への取組をよろしくお願ひします。また、新型コロナウイルス感染症拡大後の子どもたちの体力低下が気になるころではありますが、体を動かす習慣を身に付けられるよう、今後もご指導していただければと思います。これからも子どもたちが楽しく登校することができる学校でありますように、私も地域のひとりとして微力ながら協力できればと思います。
- 私の子どもたちは、親の転勤のため、小・中学校は、名古屋、神戸、東京杉並と転校しました。どこの学校のクラスでも40人を上回るクラス編成で学んできました。「豊幌小は、生徒も先生も羨ましい。」豊幌小学校の生徒がいかに恵まれた環境で学習できているかは、生徒は知りません。一番知っているのは、いくつか学校を異動し、多人数の経験のある先生です。この豊幌の「少人数学級」の強さを可能な限り「あらゆる面」で生かす努力を期待する。
- 豊幌小学校の児童は、道路ですれ違うたびに明るく「こんにちは」と自ら挨拶してくれるので、感心しております。学芸会等のYouTube動画配信もありがとうございます。児童のがんばる姿が見れて良いと思いました。離れた祖父母にも見る機会があり良いですね。丁寧な言葉遣い、丁寧な掃除、という言葉が豊幌小学校の教えに度々出てきます。忙しい現代社会において、丁寧という、とても大事な言葉だと思います。子どものころに丁寧が身についたら素晴らしいと思いました。